

## 【J 南島原市-加津佐エリア Minamishimabara City-Kazusa Area】



加津佐沖のイルカウォッチング船から

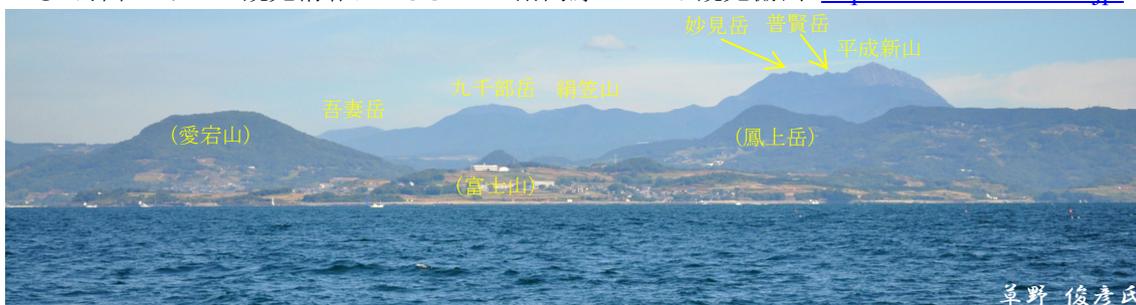
南島原市-加津佐(かづさ)エリアでは、“[南西面の雲仙岳](#)”が眺望できます。小学校の校歌には雲仙岳が登場し、地域で古くから親しまれてきたことが分かります。雲仙岳の山岳信仰が盛んであった往時をしのばせるものとして、温泉神社の分社(加津佐温泉神社)が現存しています。山並みとしては、至近距離にある雲仙岳より古い火山群(鳳上岳や愛宕山、富士山など)の奥に、九千部岳～妙見岳・普賢岳・平成新山が連なって見えるのが特徴です(↓)。

当エリアと天草諸島にはさまれた早崎海峡には、約300頭のミナミハンドウイルカが定住していますが、これは、約50万年前に海底火山から火山島となった雲仙岳が、噴火活動を繰り返して約40万年前に諫早とつながって半島を形成したことにより、早崎海峡が有明海の水の出入口となったことと関係します。有明海の潮の満ち引きの度に大量の海水が早崎海峡を流れるため、プランクトンが多く発生し、それを餌とする魚が集まり、イルカが集まる、というわけです。

当エリアは、隣接する口之津エリア(口之津港)が古代以来の西九州の交通上の要所であったため、様々な大陸文化がいち早く入ってきました。中世の時代、南蛮船来航と共にキリスト教が伝来し、1563年にはイエズス会のルイス・アルメイダが口之津に入ってキリスト教の布教を開始し、当エリアにも伝わりました。1590年には、豊後府内(大分市)にあった国内唯一のコレジヨ(高等教育機関)が当エリアに移転され、“天正遣欧少年使節”の任務を終えて帰国した4名の青年は、持ち帰った“グーテンベルク式金属活字印刷機”で国内初の印刷を行いました。江戸時代初期の“島原・天草一揆”の際には、当時の加津佐村の村民ほぼ全員が一揆に参加したとされています。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、加津佐エリアを旅してみませんか？

●加津佐エリアの観光情報はこちら ⇒ 南島原ひまわり観光協会 <http://himawari-kankou.jp/>



加津佐沖のイルカウォッチング船から(南西から)



岩戸山の山頂から(加津佐漁港越しに)